

分類不能型間質性肺炎におけるステロイドとタクロリムス併用療法の 有用性と安全性に関する検討

間質性肺炎は情報が不十分な場合に診断が不確実となり治療方針を決めることに困る場合がしばしばある病気です。間質性肺炎の原因は様々ですが、原因不明のものは特発性間質性肺炎と呼ばれ、びまん性に肺に炎症と線維化がおこって呼吸苦が悪化します。

中でも分類不能であった場合は分類不能型間質性肺炎(unclassifiable IIP)と呼ばれますが、その治療法はまた確立していません。分類不能型間質性肺炎は、自己免疫疾患である膠原病や外科的肺生検を行っていないために診断がついていない方もいらっしゃいます。膠原病の方や特定の診断がされた方は、自分の免疫力を抑えるステロイドとタクロリムスの併用が効果的と報告されていますが、分類不能型間質性肺炎では効果がわかっていません。

そこで、2007年4月～2015年7月に公立陶生病院で分類不能型間質性肺炎と診断された患者さんのうち、ステロイドとタクロリムスで治療を行った患者さんの診療情報を収集して解析を行います。

この研究で得られた結果は、学術集会、医学系雑誌へ発表予定ですが、集計・解析・発表に際して匿名化して情報を取り扱い、対象者の個人情報を厳重に保護しています。上記に該当する方で、この研究についてのご質問や研究協力の拒否を希望される方がございましたら、お手数ですが公立陶生病院呼吸器・アレルギー疾患内科医師・古川大記（電話0561-82-5101）までご連絡いただければ幸いです。

研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 谷口 博之
研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科部長 近藤 康博
研究協力者：公立陶生病院 呼吸器・アレルギー疾患内科医師 古川 大記